

## 第2章 畜産業編

### 1 現状と課題認識

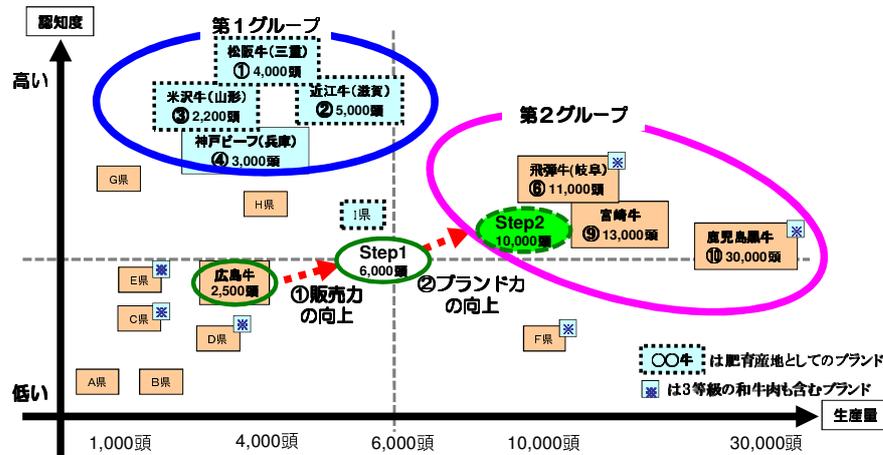
#### 1) 販売

##### (1) 現状と課題

- 平成3年の牛肉の輸入自由化以降、和牛は輸入牛肉との差別化を図るため、全国的に肉質、特に脂肪交雑(霜降り)の能力を高める方向に改良の舵を切りました。
- 広島県でも県有種雄牛の脂肪交雑能力を中心に改良を進め、現在の「広島牛」は、第1グループと比べても遜色のない肉質能力を有する和牛となりましたが、肉質能力の向上が全国的レベルになるのは少し遅れていました。
- また、販売については、他の産地と同様に高品質商品(4等級以上)をブランド化し食肉専門店を中心に販売しましたが、量的拡大はできませんでした。
- そのため、食肉専門店での取扱量が安定しなかったことから、著名な銘柄牛のような認知度(商品イメージ)を早期に確立することができませんでした。

##### (2) 取組の方向性

- 現在の消費者の和牛肉購買先が、食肉専門店から量販店に移行していることから、量販店をターゲットに、従来の4、5等級のみではなく3等級も含め販路拡大を行い、広島血統を有する県産和牛の生産量の拡大を進めながら、量販店が求める量、価格に対応した県産和牛肉を安定供給することにより、県内における県産和牛肉のシェアを拡大し、将来的には、第2グループの生産量をめざします。
- 一方、5等級の高級和牛肉については、高級量販店や高級飲食店等の販路を確保し、ブランド力の向上を図ります。



#### 2) 生産

##### (1) 現状と課題

- 本県の繁殖農家(子牛生産農家)は、水稲との複合経営が主体の零細な個人経営が多いことから、収入規模が小さく経営継承が進まなかったため、戸数の減少に歯止めがかかりませんでした。
- このため、集落法人での子牛生産を拡大することとし、高度化品目である「広島牛」の導入を進めました。
- 集落法人への繁殖和牛の導入は一定程度進み、10~20頭規模の経営も育成できましたが、農業主体の経営であったため、それ以上の拡大には至りませんでした。

##### (2) 取組の方向性

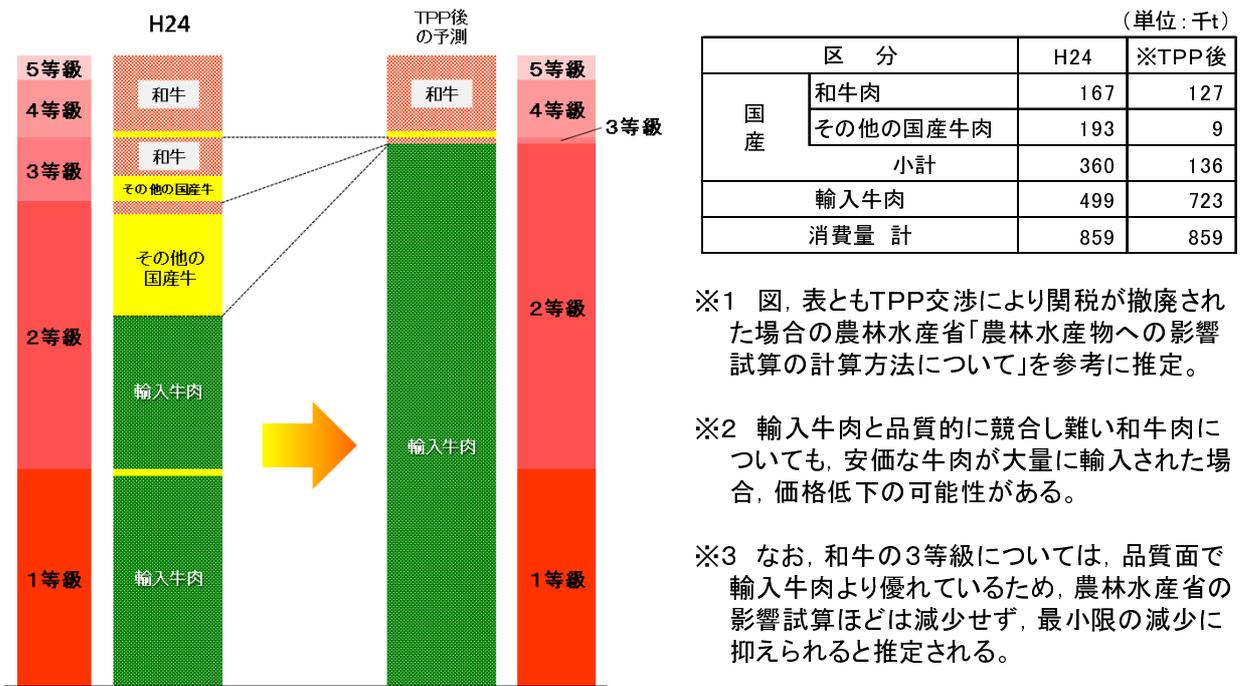
- 今後は、継続して安定的に畜産業を営むことのできる専業経営や法人経営をめざす経営体を段階的に育成し、そのために必要な規模へ増頭する取組と耕畜連携による飼料確保を進めます。

## 2 取り巻く環境

### 1) 国際情勢の変化

- TPP, EPA交渉等の影響により、価格の安い北米産や豪州産の牛肉、ニュージーランド産の乳製品、カナダ産の豚肉等の輸入量が増加することが予測されます。
- これにより、牛肉においては、輸入牛肉と品質や販売価格帯の近い乳用牛等の牛肉(国産牛)が競合すると予想されています。また、和牛肉に関しては、4等級以上は品質の違いから直接的な競合は想定されていないものの、国内の牛肉消費が急激に増加することは想定しにくいことから、若干、価格が低下すると予想されています。
- 一方、乳製品においては、安価な乳製品の輸入が増大することから、北海道産の国産乳製品(バター、チーズ等)が競合すると予想されており、国内乳製品に仕向けられている生乳が飲用乳へ仕向けられると想定され、牛乳の供給過多と価格の低下が懸念されています。
- 更に、豚肉においては、品質的な差が少ないため、家庭用、業務用とも競合すると予想されています。
- 今後の国内の畜産経営は、低価格な輸入畜産物(牛肉、乳製品、豚肉等)の流通を視野に入れた展開がますます必要となっています。

牛肉の国内推定消費量に与える関税撤廃の影響予測(農林水産省影響試算を参考に推定)



### 2) 為替相場の変動と自給飼料の拡大

- 輸入に原料の多くを依存している配合飼料は、為替変動の影響を軽減する価格安定制度の仕組みがありますが、粗飼料(乾牧草)についての価格安定制度はなく、近年、特に急激な為替相場の変動は、牛に必要な粗飼料の調達に大きく影響します。
- また、粗飼料の場合、平成24年度の取引価格から試算すると、目安として70.6円/1USDドルを境に、円安となる場合は国内粗飼料が、円高となる場合は輸入粗飼料が価格的に有利となります。
- しかし、飼料が頻繁に変わることは牛の採食量に大きく影響し、畜産物の生産効率の低下を招くデメリットがあることから、低価格であるとともに為替変動の影響を受けにくい自給飼料(WCS用稲、飼料用米等)の利用拡大は経営の安定化に不可欠です。

### 3 取組の考え方

#### 1) 基本方針

- 現在の県産和牛肉の販売価格帯及び品質で対抗できる第2グループの位置をめざします。
- 和牛肉の県内消費量のうち55%を取り扱う量販店で、3等級も加えた品揃えにより県産和牛肉のシェアを拡大します。
- 5等級の高級和牛肉については、高級量販店、高級飲食店等への販路を開拓し、ブランド力の向上を図ります。
- 当面、平成32年までに出荷頭数6,000頭をめざし、県内和牛肉消費量の50%超のシェアを獲得します。

〔※ 県内の和牛肉消費量のシェアの過半を獲得することにより県産和牛ブランドを定着させ、将来的に、更なる供給力の拡大による他県への販路拡大のための基礎固めとします。〕

#### 2) 血統に着目した和牛産地の再構築と市場競争力の強化

##### (1) 販売戦略

① 肉質等級別の商品構成を明確にし、量的確保を図ります。

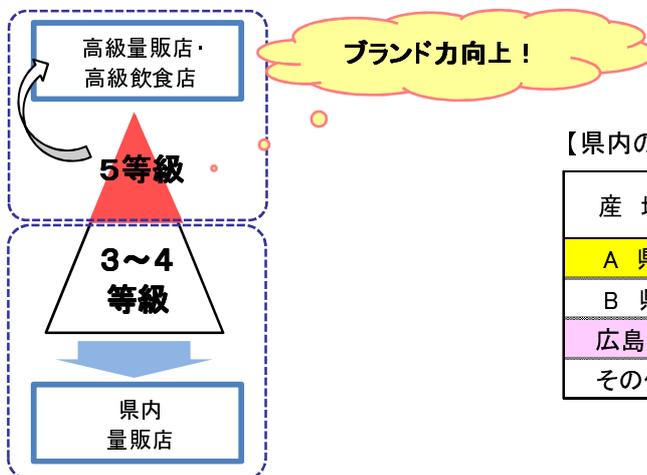
【県内和牛肉消費量の内訳(H24推定)】

- ・ 県内和牛肉消費量(約10,300頭)に対し、県産和牛肉の供給量は約3,300頭の3分の1程度(平成24年時、畜産課推定)しかありません。
- ・ また、県内の和牛肉の流通は、量販店が55%と多く、県内量販店が取り扱う和牛肉のうち、県産和牛肉は24%程度しかありません。(平成24年時、畜産課推定)
- ・ 量販店では、安定供給される他県産和牛肉の取り扱いが多くなっていますが、品質、販売価格帯ともに県産和牛肉との差はなく、「他県産と差別化でき、一定の供給量があれば県産和牛肉を取り扱いたい」との意向を持っています。
- ・ このため、県内量販店をターゲットに、歴史と伝統のある広島和牛血統の特徴をアピールしながら、3~4等級を中心に県産和牛肉の定番化販売を進め、県産和牛肉消費量を拡大します。



② 高級和牛肉によりブランド力の向上を図ります。

- ・ 5等級の高級和牛肉については、高級量販店、高級飲食店への販路を開拓して、取引実績を重ねることにより評価を高め、県産和牛全体のブランド力の向上を図ります。



【県内の主な量販店における和牛肉取扱状況】

産地	推定取扱頭数(頭/年)	取扱規格	特徴
A 県	2,780頭	3~4等級	供給量
B 県	770頭	4等級	品質・供給量
広島県	1,370頭	3~4等級	地元産
その他	700頭	4等級	品質

## (2)生産体制

小規模で零細な和牛経営のままでは、和牛産地としての基盤が不十分であるため、独立採算が可能な和牛専業経営体の育成をめざします。

### 【繁殖経営】

- ① 既存経営体の規模拡大
  - ・ 現在30頭規模以上の家族経営体は、所得500万円以上の安定的な経営である50頭規模以上へ育成し、法人化をめざします。
  - ・ 30頭規模未満の経営体は、30頭規模以上の中核的な家族経営体をめざします。
- ② 新規就農者の育成
  - ・ 新規に就農を希望する者に対し、経営技術習得のための実践研修、用地の確保、資金調達等就農環境の整備に取り組みます。

### 【肥育経営】

- ・ 和牛肥育経営(既存経営体)の規模拡大に取り組みます。
- ・ TPP等の対策として、乳雄牛等肥育経営の和牛肥育経営への転換又は参入を図ります。
- ・ 新規就農者については、上記②と同様に取り組みます。

### 【繁殖肥育一貫経営】

- ・ 子牛価格の相場に影響を受けない、効率的な経営である繁殖肥育一貫経営の育成をめざし、既存経営体の繁殖肥育一貫経営化(更なる利益拡大のための法人経営への発展)に取り組みます。
- ・ 新規就農者については、上記②と同様に取り組みます。

### 【差別化要素(商品性)の強化】

- ・ 血統に基づく県有種雄牛の造成と広島血統精液等の供給を実施します。
- ・ 次世代の差別化要素(肉色、肉の旨み等)を持った牛づくりに取り組みます。
- ・ 地域(市町、生産者団体等)の取組との連携を図ります。

## 3)酪農・養豚・養鶏における経営力と販売力の強化

### 【酪農経営】

- ・ 性判別精液及び広島血統和牛受精卵の活用技術並びに体制の強化に取り組みます。
- ・ 県産飼料の利用拡大等による生乳生産費の低減に取り組みます。
- ・ 酪肉複合経営の推進(企業経営の育成)に取り組みます。

### 【養豚・養鶏経営】

- ・ 広島県産応援登録制度による生産者の販売支援や飼料用米等の利用推進に取り組みます。

## 4)自給飼料の低コスト生産と利用の強化

- ・ 水田フル活用によるWCS用稲・飼料用米等良質飼料の生産支援と利用の推進に取り組みます。
- ・ 低コスト及び効率的生産のための飼料給与新技術(短期肥育技術等)の導入に取り組みます。
- ・ 稲わら(耕種)と堆肥(畜産)の相互利用等、地域の耕畜連携の更なる拡大をめざします。

## 5)家畜防疫対策との連携

- ・ 飼養衛生管理基準の順守指導に取り組みます。

## 4 達成すべき状態及び事業計画

### 1) 達成に向けた全体の考え方

「血統に着目した和牛産地の再構築」と「畜産物の市場競争力の強化」を推進するため、次の視点を持って販売から生産・供給まで一体となった取組を実施します。

- (1) 差別化要素の付加、県内量販店等での定番販売、高級店への販路拡大によるブランド力の向上により、消費者に選ばれる畜産物を提供します。
- (2) 増頭や畜舎建設の投資リスクの軽減と自給飼料利用等によるコスト削減により、経営意欲を高め、差別化要素となる広島固有血統和牛の増頭を促進します。

### 2) 達成すべき状態と目標数値

		めざす状態	H27	H28	H29
達成すべき状態	販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>県産和牛に対する実需者の認知度及び評価が高まり、和牛肉の取扱が多い県内量販店を中心に県産和牛ブランドを定番化して有利販売する店舗が増加している</li> <li>(現状) 量販店5店舗</li> <li>(目標) 量販店30店舗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内量販店、高級店への利用提案等により、定番化とブランド力向上が図られている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>量販店延べ20店舗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和牛肉の取扱が多い県内量販店等において、定番化して県産和牛ブランドを販売する店舗が増加している</li> </ul>
	流通	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島県和牛血統承認制度を活用した県産和牛ブランドの流通体制が構築されている</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>差別化要素を付加した県産和牛ブランドの流通体制が推進されている</li> </ul>
達成すべき状態	生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>【繁殖経営】</li> <li>・独立就農者の子牛販売収益が計画通りに進んでいる</li> <li>・中核的経営体の規模拡大が進んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【繁殖経営】</li> <li>・独立就農者がリース牛舎等で経営を開始する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【繁殖経営】</li> <li>・独立就農者の経営を検証し、増頭を図る</li> <li>・中核的経営体が増頭を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【繁殖経営】</li> <li>・独立就農者の子牛販売収益が得られている。</li> <li>・中核的経営体の規模拡大が進んでいる</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>【肥育経営・一貫経営】</li> <li>・和牛肥育経営において繁殖和牛の導入が開始され、乳雄牛等肥育経営において和牛の割合が増加している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【肥育経営・一貫経営】</li> <li>・繁殖和牛飼養技術や和牛肥育技術の習得が図られている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【肥育経営・一貫経営】</li> <li>・中核的経営における乳用牛からの乳雄子牛の割合が増加している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【肥育経営・一貫経営】</li> <li>・和牛肥育経営において繁殖和牛の導入が開始され、乳雄牛等肥育経営において和牛の割合が増加している</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>【酪農経営】</li> <li>・和牛生産に取り組む戸数が増加している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【酪農経営】</li> <li>・中核的経営における性判別精液の利用による後継乳用牛の確保が進んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【酪農経営】</li> <li>・中核的経営における乳用牛からの乳雄子牛の割合が増加している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【酪農経営】</li> <li>・和牛生産に取り組む戸数が増加している</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>【耕畜連携】</li> <li>・自給飼料の利用割合が増加し、生産コストの削減が進んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【耕畜連携】</li> <li>・水田フル活用によるWCS用稲や飼料用米の利用が拡大している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【耕畜連携】</li> <li>・自給飼料の利用割合が増加し、生産コストの削減が進んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【耕畜連携】</li> <li>・自給飼料の利用割合が増加し、生産コストの削減が進んでいる</li> </ul>
目標数値	目標項目	現状(H25)	H27	H28	H29
	広島県産和牛出荷頭数(頭)	4,019	4,380	4,630	4,920
	畜産生産額(億円)	428 (見込値)	437	441	447

### 3) 広島県産和牛の生産拡大と畜産物の販売力強化

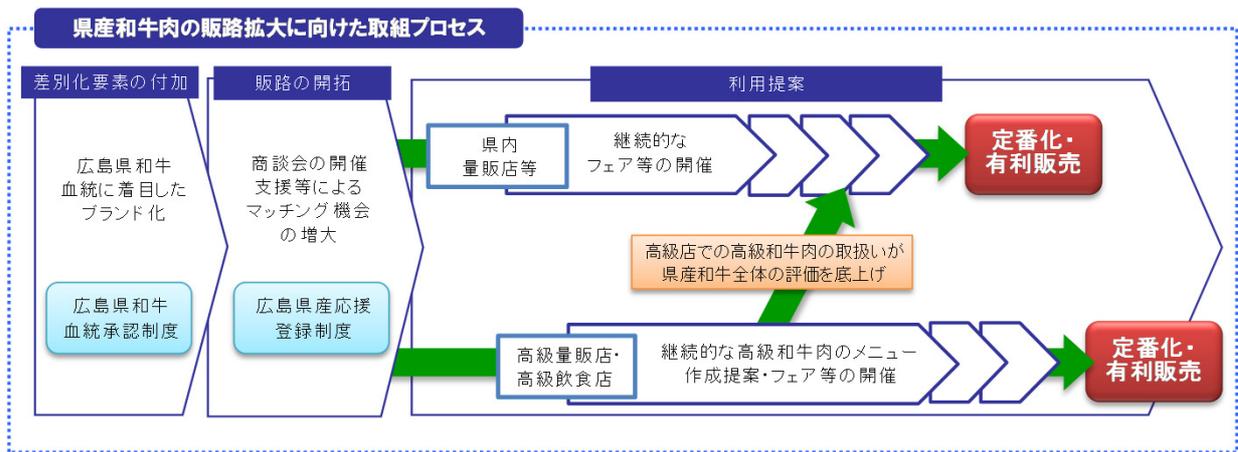
#### (1) 販売戦略

##### ① 県内量販店、飲食店等への販売支援

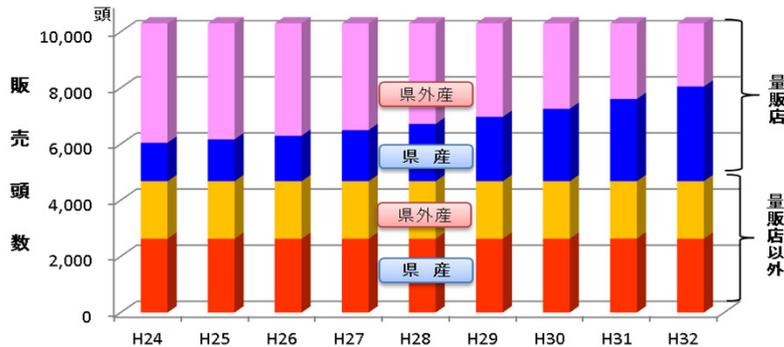
- ・ 和牛肉については、広島県和牛血統承認制度及び広島県産応援登録制度を活用し、県内量販店、飲食組合、ホテル等との商談会を開催し、生産者等による商品提案を支援します。
- ・ 商品提案後、継続的なフェア等の開催により、売上状況や消費者の反応等を確認します。
- ・ フェア等での取組実績に基づき、定番化販売につなげていきます。
- ・ なお、和牛肉以外の畜産物についても、同様に広島県産応援登録制度を活用し、県内量販店、飲食店等への販路拡大を支援します。

##### ② 高級和牛肉の高級店への販売支援

- ・ 高級量販店、高級飲食店等への商品提案、シェフによる高級和牛肉のメニュー作成提案及びフェアの開催等を支援するとともに、上記①の取組により高級和牛肉の販路拡大を支援します。
- ・ これらの取組の継続実施により定番化販売へつなげ、ブランド力の向上を図ります。



県産及び県外産和牛肉の販売数量推移(計画)



#### (2) 流通体制

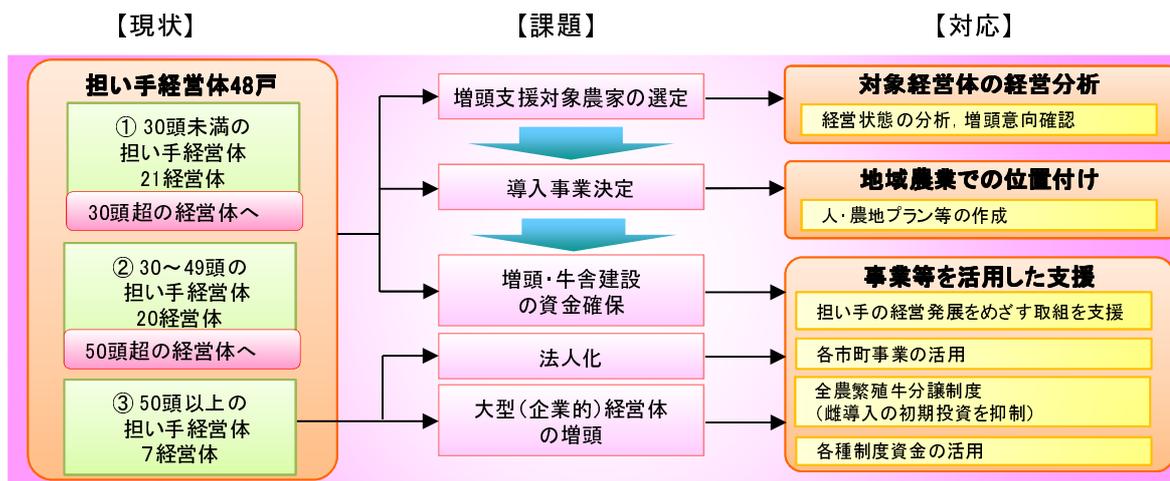
- 食肉については、食肉市場等での畜及び食肉衛生検査後に流通する体制となっていることから、食肉市場等における広島県和牛血統承認制度を活用した取組を推進します。
- 生産者の顔が見える和牛肉流通体制の構築を支援します。

### (3)生産体制

#### ① 既存経営体の規模拡大と新規就農者の育成等

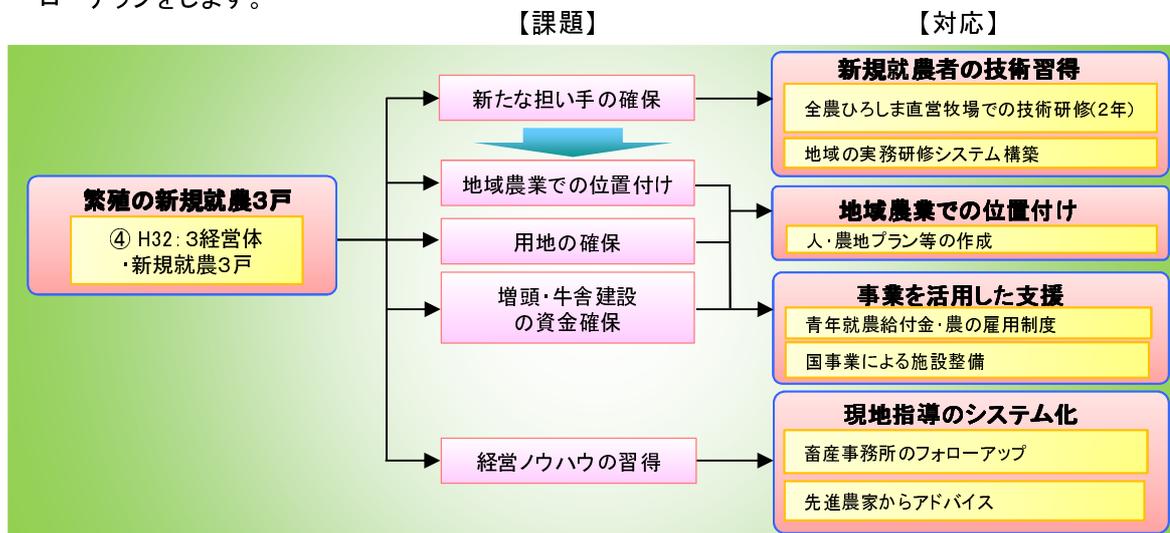
##### ア 既存繁殖経営体の規模拡大

- ・ 30頭規模未満の経営体は、家族経営モデルである30頭規模への拡大を支援します。
- ・ 30頭以上50頭規模未満の経営体は、事業モデルである50頭規模以上への拡大を支援します。
- ・ 50頭規模以上の経営体は、規模拡大を促すとともに繁殖肥育一貫経営化や法人化を支援します。



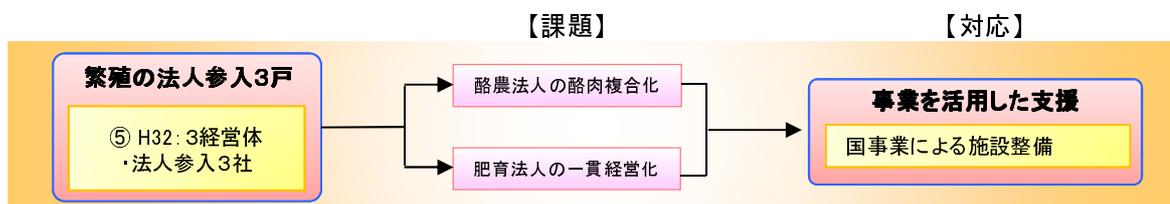
##### イ 新規就農者の育成

- ・ 各種事業の活用と関係市町、団体等との連携により、就農しやすい環境整備支援及び就農後のフォローアップをします。



##### ウ その他経営体の育成

- ・ 酪農経営の和牛受精卵移植による酪肉複合経営化を支援します。
- ・ 肥育経営の規模拡大や繁殖肥育一貫経営化を支援します。
- ・ 酪農大規模経営の誘致や乳用牛育成牧場の設置を進めます。

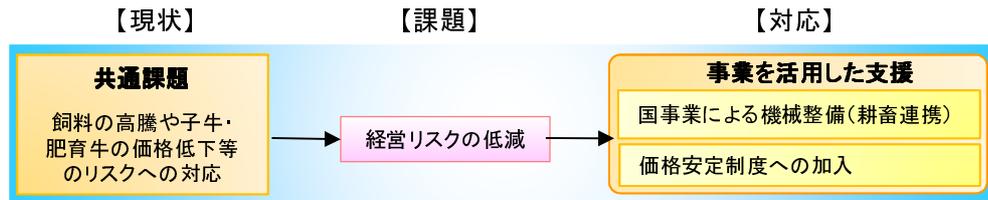


エ 牛づくり・飼養管理技術向上の推進

- ・ 消費者に選ばれる次世代の差別化要素(肉色, 肉の旨味等)を確立します。
- ・ 広島血統和牛の効率的増産新技術を確立します。
- ・ 生産性向上のための飼料給与技術(短期肥育等)を確立します。
- ・ TMRセンターの整備推進を図ります。

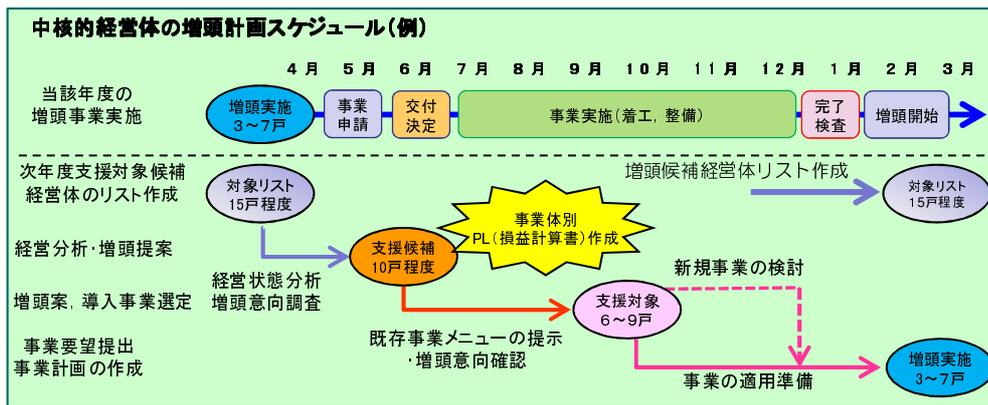
オ 共通課題

- ・ 飼料の高騰や子牛・肥育牛等の価格低下リスクへの対応を進めます。



② 取組のスケジュール

- ・ 中核的経営体の規模拡大等を進めるため, 次のような年間スケジュールで取り組みます。



③ 中核的経営体の育成計画

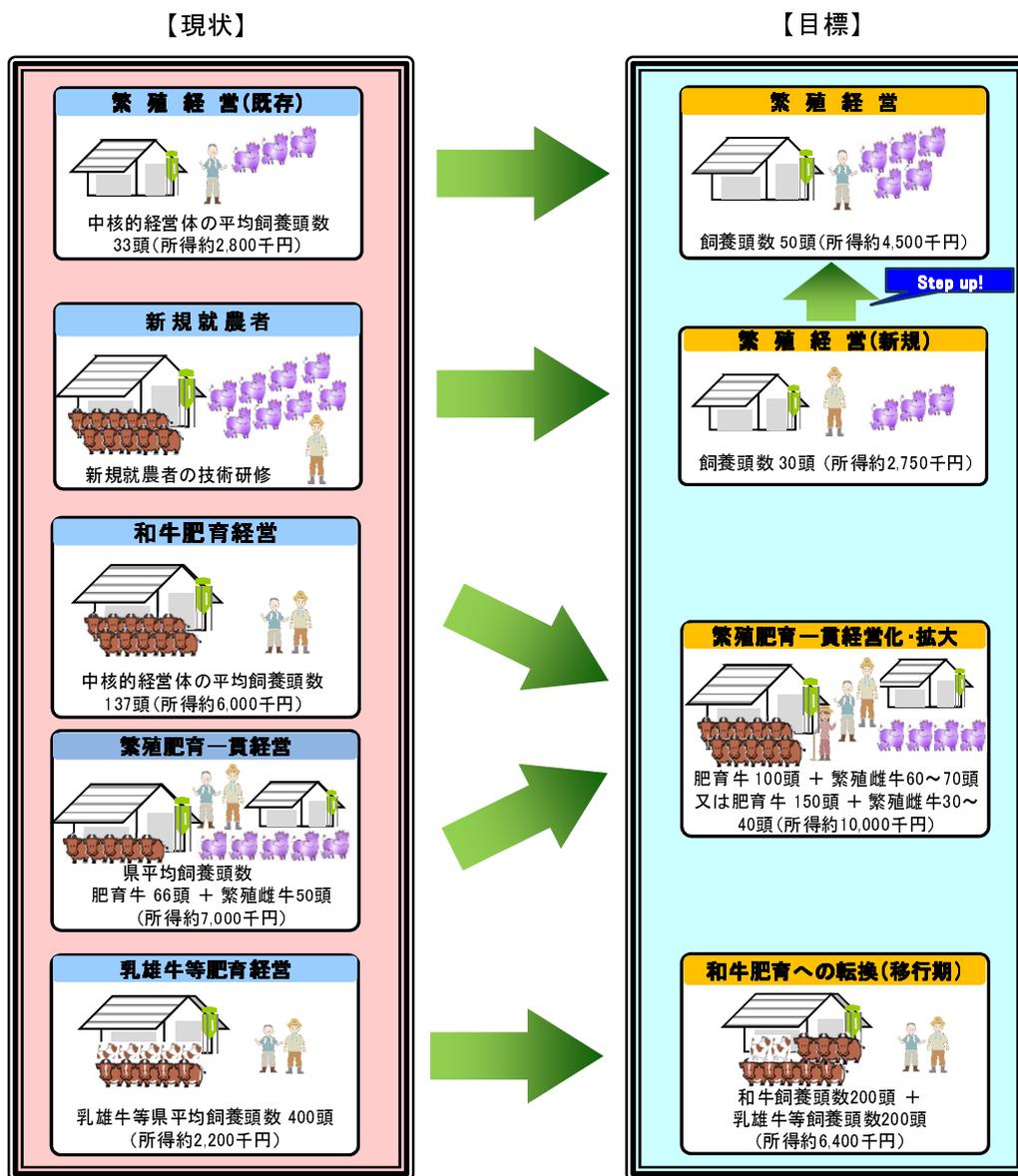
【H24(現状)】 【H32(目標)】

- ・ 50頭以上の繁殖経営体 (一貫経営体を含む) (うち繁殖の新規就農) 7経営体 ⇒ 35経営体 中核的経営体の増頭 +1,600頭の達成
- ・ 150頭以上の肥育経営体 8経営体 ⇒ 25経営体 中核的経営体の増頭 +3,010頭の達成

	飼養頭数	飼養戸数				飼養頭数	飼養戸数		
		H24	H27	H32			H24	H27	H32
繁殖経営	50頭以上	7	13	35	肥育経営	200頭以上	6	6	10
	30~49頭	20	21	15		150~199頭	2	2	15
	30頭未満	21	15	4		100~149頭	10	14	7
	(内, 新規就農等)	(0)	(1)	(6)		100頭未満	14	11	3
	計	48	49	54		計	32	33	35

#### (4) 事業モデル(例)

- 既存の繁殖経営体は、経営分析、人・農地プラン作成、事業等の活用により、30頭未満は家族経営モデルである30頭規模へ、30～50頭未満は事業モデル(専門モデル)である50頭規模をめざします。
- 新規就農者は、全農実験牧場等で研修後、人・農地プラン作成、事業等の活用、経営のフォローアップ体制構築により、飼養頭数30頭規模からの経営開始をめざします。  
更に、経営が安定した後は、50頭規模の事業モデル経営体(専門経営)をめざします。
- 和牛経営は、規模拡大による経営の高度化、又は、繁殖肥育一貫経営化による経営の高度化をめざします。
- 乳雄牛等肥育経営は、国際情勢の変化に対応するため、影響の少ない和牛肥育経営への転換を進めます。



#### (5) 目標数値(現状(H25)→H29(目標)→H32(目標))

項目	H25	H29	H32
広島県産和牛出荷頭数(頭)	4,019	4,920	6,000
畜産生産額(億円)	428(見込値)	447	466